

Michi na Nōda

立教大学観光学部 西川研究室

プロジェクト名説明

Michi na Nōda

-道な野田-

-未知な野田-

-未知なのだ-

目次

1. 観光まちづくりの到達点とこれから（西川亮造）
2. 概要
3. 地域分析、地域資源
4. サイクリングロードの併走態、地域課題・アクション
5. 今後の方針
6. 情報発信
7. まとめ

1. 観光まちづくりの 到達点とこれから

1-0 立教大学観光学部 西川研究室について

大事にしているアプローチ

1. 観光の対象となるような地域にもそこに居住する住民の生活がある。それを大切にした観光を考えたい。
2. その地域ならではの個性を活かした観光を考えたい。
3. 観光客の「楽しみ」も大切にしたい。けれど、「深い観光」ではなく、「深く地域らしさを楽しむ観光」を実現したい。
4. 地域で実際に起きていることから学ぶ姿勢を大事にしたい。



西川について

専門：都市計画・まちづくり・観光政策/博士(工学)

観光政策

1-1 観光まちづくりの到達点とこれから



1-1 観光まちづくりの到達点とこれから

- ・ 従来型の観光地（温泉・自然景勝地等）から一般的な街への観光の広がり
- ・ 「観光で稼ぐ」政策の展開
- ・ 観光客数など数値で評価される観光がもたらした、地域住民への負の影響
- ・ 地域と対立する観光ではなく、地域と共存する観光が必要に（地域住民にとってのレクリエーションと来訪者にとっての観光の両輪）
- ・ 地域資源のPRや消費だけでなく、地域の価値を作る必要も。



1-1 観光まちづくりの到達点とこれから

- ・ 従来型の観光地（温泉・自然景勝地等）から一般的な街への観光の広がり
- ・ 「観光で稼ぐ」政策の展開
- ・ 観光客数など数値で評価される観光がもたらした、地域住民への負の影響
- ・ 地域と対立する観光ではなく、地域と共存する観光が必要に（地域住民にとってのレジャーエーションと来訪者にとっての観光の両輪）
- ・ 地域資源のPRや消費だけでなく、**地域の価値を作る必要も。**

都市計画・まちづくり分野の得意とする分野



上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）

上野市まちづくり計画策定委員会
事務局（上野市役所）



1-1 観光まちづくりの到達点とこれから



1-1 観光まちづくりの到達点とこれから

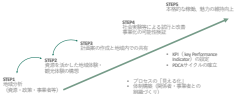
- ・ マスタープラン型の都市計画から地区スケールの魅力向上へ
- ・ 社会実験等を用いた、漸進的な手法の出現
- ・ 公共空間の再生や魅力創出
- ・ 歴史的建造物や景観の改善など、その地域ならではの個性を高める



1-1 観光まちづくりの到達点とこれから



1-2 観光まちづくりの計画論的ステップ



2. 概要

2-1 野田プロジェクト “Michi na Noda” とは

野田市地方環道課の事業として、立教大学観光学部西川研究室が江戸川沿いのサイクリングロード（以下一部をCRと表記）を中心に観光まちづくり・観光振興を行っていくもの



プロジェクト概要

プロジェクトの目的

野田市の概要



2019年、本学観光学部が「大学生観光まちづくりコンテスト 関東 River CyoRingステージ」において、野田市を対象に作成したプランが優秀賞を受賞したことがきっかけ



2-3 地域訪問（サイクリングロード）



2-3 地域訪問（中心市街地）



2-3 地域訪問（議論）



認識して
買がついたことを
共有

2-3 地域訪問



幅員を
メジャーで
計測

2-4 議論 (Miroを利用した地域資源・課題の共有)



2-4 議論



イラストレーター
を使用して地図作成

2-4 議論（地域訪問で見つけた資源や課題の書き込み）



2-4 議論 (CRの将来像)



2-4 議論 (KPIの定義決め)



2-5 文献調査発表



企業・行政・学
の3者に分かれて
調査し、発表

2-6 これまでの活動の流れ



本日の報告の流れ

2-7 本日の報告の流れ



3. 地域分析・地域資源

3-1 地域分析



さまざまな角度から地域分析を実施。

文献調査で認知した資源を訪問で確認するなど、訪問と文献調査を並行的に行っている。

3-1 地域分析

① 経路

訪問日	行程	目的
10/19 10/20 11/4	OR中心に周辺を車で巡回	初めて調査対象を訪問し、調査対象の概要を確認し、ORの概要説明を行う。
11/28	清水公園から調査地までのルートを確認 市道沿いの木、ガイドブックによる市街地の調査範囲内	実際にルートを確認し、魅力や課題を確認する。
12/16	川原崎町道沿い-ORを巡回	ORと市街地の関係性を確認する。
12/20	市道沿い、清水町道沿いの巡回	市街地の概要を確認する。
12/27	調査地沿いの市道沿いの巡回	調査地沿いの概要を確認する。
1/28	市街地に関する調査を実施 清水公園付近を巡回	市街地の概要OR-OFである「市街地」にOR-OFである、

3-1 地域分析

② 文献調査

歴史・行政・産業の3つのグループに分け、『野田市史』などの文献やインターネット資料を用いた文献調査を実施。それぞれ資源や課題を整理し、パワーポイントにまとめた。内容の詳細は後述。



3-1 地域分析

【行政圏】

調査項目

野田市総合計画
野田市都市計画マスタープラン
野田市まち・ひと・しごと
創生総合戦略
野田市食育推進計画【第2次】

概要

調査対象地

調査年度

調査実施機関

調査実施期間（年～月～日）

調査対象の人口・世帯数（調査年度）

調査実施の経緯（経緯あり）

調査の位置づけ



調査対象の構成と計画期間



調査の位置づけ：調査対象地と調査対象地の関係性を示す図表
調査の位置づけ：調査対象地と調査対象地の関係性を示す図表

調査項目

調査項目：調査対象地の調査項目を示す図表
調査項目：調査対象地の調査項目を示す図表

調査結果

調査結果：調査対象地の調査結果を示す図表
調査結果：調査対象地の調査結果を示す図表

3-1 地域分析

【産業地】

調査項目	
産業の構造	観光業
工業	サイタリング
農業	コウノトリ
商業	まちづくり
製造業	学校の連携
不動産	大学との連携
宿泊業・飲食業	課題

観光地	
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地

観光地	
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地

観光地	
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地

観光地	
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地
観光地	観光地

3-1 地域分析

③他地域での事例調査

他地域で行われているサイクリングや河川空間の活用などに関する事例を各自調べ、共有。

例) 河川敷での書斎設置、CRの拠点施設



3-2 地図データ作成

これまでの地域訪問を通し、ロード上における景観の良いポイントや信号機などの安全面の課題、ロード上のお店などの資源を探したものを、データとして一つの地図に纏めた。

地図に集めし込んだこと

- ・景色（富士山が見える・川がきれいなど）
- ・南北からの観光地
- ・川沿い・できそうなこと
- ・店などの地域資源



3-3 地域資源とは

野田市の魅力的な場所やもの、この施策に活用できそうな場所やもの



- ①地域訪問によって見つけた資源
- ②文献調査によって見つけた資源
- ③仮の課題の検証によって見つけた資源

3-4 ①地域訪問によって見つけた資源の例

釣り堀



川沿いのコンタクト



3-4 ①地域訪問によって見つけた資源の例



『ゆめあて平野田』



ロード沿いのビニールハウス



3-4 ②文獻調査によって見つけた資源の例



食

醤油
酢
味噌
大町小虎

醤油
酢
味噌
大町小虎



文化財

金野科員庫
稲の内蔵跡
西木七郎右衛門家



観光

同窓
清水公園
知人旅館
CR



著者人

鈴木真太郎
平松門

3-4 ③仮課題の検証によって見つけた資源の例

観光

夏まつり

NODAWOODフェスタ
阿蘇花火大会

まちづくり

NODAは、まい・びーんす
野田内サイクリング協会
野田同窓会スポーツクラブ
NODAは、人間生活定場
地域教育プラットフォーム事業

自然

レッドリストに記載されている植物

—イチョウウキゴケ
—イトトナゲモ
—イスフゲリ
—ミゾコウジュ

人材

初見貞昭（武蔵野）
おびちゃん（野草）



4. 将来像・地域課題・ アクション

4-1 サイクリングロードの将来像決定に至るまで

さまざまな角度からの調査により見えてきた
地域課題と資源を整理



それをつまみ、理想の将来像のアイデアを出し合う



出されたアイデアをもとに
「いつでもだれにでも開かれたサイクリングロード」に決定

- ① 調査
- ② 整理
- ③ 整理を踏まえた意見交換
- ④ 意見交換
- ⑤ 将来像の決定と計画立案

4-1 私たちの考えるサイクリングロードの将来像

いつでも誰にでも開かれた サイクリングロード



① 国土利用・都市計画院
PMU-HDDA

② 国土利用・都市計画院

③ 国土利用・都市計画院

④ 国土利用・都市計画院
PMU-HDDA

⑤ 国土利用・都市計画院

⑥ 国土利用・都市計画院

⑦ 国土利用・都市計画院



⑧

4-2 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

思いの場の創出

- ・ 自然の力を助かる場しめたり、移動手段として利用したりできる
- ・ 町民の希望の拠点となる
- ・ 役でも楽しめる

開かれた環境

- ・ 公園のせせらぎに接できるような開放的な場所
- ・ 市の魅力を伝えることができる
- ・ 市の歴史や自然に繋がる
- ・ 隣県からも訪れたいくなる

自然との共生

- ・ 四季折々の自然を感じられる
- ・ 川や湖沼の風景を楽しみつつ、風を感じながら気持ちよく走ることができる

安心安全の確保

- ・ 子供から高齢者まで安心して利用できる



4-2 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

思いの場の創出

- ・ 自然の力を助ける場しめたり、移動手段として利用したりである
- ・ 町民の参加
- ・ 夜でも楽しめる

開かれた環境

- ・ 公園の代わりに使えるような自然な場所

野田市のシンボルへ

- ・ 自然の力を助ける場しめたり、移動手段として利用したりである
- ・ 町民の参加
- ・ 夜でも楽しめる



4-3 地域課題とは



4-4 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

憩いの場の創出

- ・ 自然の美や憩いの場を創出したり、憩いの手段として利用したりできる
- ・ 憩いの場が憩いの拠点となる
- ・ 憩いも楽しめる

賑わいの醸成

- ・ 公園のせせらぎに誘われるような自然な場所
- ・ 市の魅力を伝えることができる
- ・ 市の景と自然景観に繋がる
- ・ 隣街からも訪れたいくなる

自然との共生

- ・ 四季折々の自然を感じられる
- ・ 川や湖沼の風景を楽しみつつ、風を感じながら気持ちよく走ることができる

安心安全の確保

- ・ 子供から高齢者まで安心して利用できる



4-5 「憩いの場の創出」理想図



野田の自然の美点に

サイクリスト以外にも気軽に使える

みんなの道としてのサイタリングロード

実現が

コバヤシ公園、山崎公園、野田公園、ピクニック
キャンプに近大公園、地蔵堂、見ヶ丘

ウォータンの憩いの場、ランニング、サイクリング、水
辺ランニング、チェアリング、ランニング、ターシャ
ポン、フォトコンテスト、河川敷のライト
アップ



4-5 「憩いの場の創出」理想図



野田の赤土の美点に
サイクリスト以外にも使える
みんなの道としてのサイタリングロード

施策①

ベンチ、貸出レジャーシート等の設置
使える場所（利用態）の明確化
→読書、飲食等、憩いから憩える場所に

4-5 「憩いの場の創出」理想図



夜にも訪れ、楽しむことができる
サイタマングラード

施策が

屋外観賞会、イルミネーション、ビア
ガーデンなど多岐にわたるイベントを実施

4-5 「憩いの場の創出」の現状と課題

現状	課題
① ベンチや小屋など、止まって休む場所が少ない	休む場所が少ない
② 夜間など、夜を照らす設備が少ない	夜の照明が不足している
③ 利用者のどこを停めてよいのか分からない	利用する環境が整っていない

4-5 「憩いの場の創出」課題検証①

課題①：人が憩える場ではない

課題把握



公園のベンチ、土が固いため
休憩できる施設。



民房や農家下など
憩いできるようなスペース。



4-5 「懸いの場の創出」課題検証②

問題点：夜の間が非常に暗い

改善効果

CR全体を通して暗く、路面近くまで車が
来ているなど、通行に注意する必要がある



4-6 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

憩いの場の創出

- ・ 自然の力を借りて涼しめたり、移動手段として利用したりできる
- ・ 憩いの場としての機能となる
- ・ 役でも楽しめる

賑わいの醸成

- ・ 公園の代わりに自然な憩いの場として使える
- ・ 市の魅力を伝えることができる
- ・ 市の景観が豊かになる
- ・ 市民から愛されるようになる

自然との共生

- ・ 四季折々の自然を感じられる
- ・ 川や湖沼の風景を楽しみつつ、風を感じながら気持ちよく走ることができる

安心安全の確保

- ・ 子供から高齢者まで安心して利用できる



4-6 「賑わいの形成」理想図



公園の代わりに自由な場所として使える
園地からも訪れたいくなる

説明①②

- ①20日間でイベント/催し物の開催
一軒家市ならではの資源を活かす
- ②特設な盛り場の活用



4-5 「賑わいの創成」理想図



野田市の北部と南部、互いの地域資源の魅力
方に気づいてもらう

説明会

北部には南部、南部には北部の資源を紹介する
看板を設置

※市内の人流を生み出し、賑わいに繋げる



4-6 「賑わいの創成」理想図



住民同士の交流の創造

図(案)①

ゴミ拾い、園地整備等のイベント実施によって
市民同士の交流を図る。OBへの関わりを創出す
ることで愛着形成も図る

4-6 「賑わいの形成」現状と課題

現状	課題
① CRとその周辺を連携させた情報が少ない	CRや周辺での観光に関する情報が集めにくい
② CR周辺でのイベントが盛んでない	CRに賑わいが生まれにくい
③ CR周辺で、市民が集まる場所がない	市民にCRを交流の場だと思ってもらいにくい
④ レンタサイクルがない	自転車を活用した観光がしにくい
⑤  CR上に人が少ない	CR自体の認知度が低い





① 観光客の誘致・滞在の促進

② 観光客の滞在の促進

③ 観光客の滞在の促進

④ 観光客の滞在の促進

⑤ 観光客の滞在の促進

⑥ 観光客の滞在の促進

⑦ 観光客の滞在の促進

4-5 「観光地の調査」課題検証①

課題①：ORや周辺での観光に関する情報が集めにくい

検証結果

野田駅、千原駅、TAMRINのマップ！OR、周辺施設が掲載

サイタリストの個人BLOG：周辺施設の紹介

施設や施設—サイタリスト向けのもの（分館や地、休館日）、同地域、地や公園、観光工場など

4-6 「観光地の形成」課題検証①



＋体験型のマップ

同定校や清水公園等、写真付きで紹介
自転車屋やコンビニエンスストア、
マークで位置提示

マップの対象範囲が広く、
自由な探索ができる

4-6 「観光地の構成」課題検証①

課題①：ORや周辺での観光に関する情報が集めにくい

検証結果

野田駅、千原駅、TAMRINのマップ！OR、周辺施設が掲載

サイクリストの個人LOG！周辺施設の紹介

施設・施設—サイクリスト向けのもの（休憩所、トイレ）、商店街、温泉公園、温泉工場など

一つのマップを見るだけでは情報に偏りがあり、

複数のマップを見なければ十分に情報を得ることが出来ない。

4-5 「賑わいの醸成」課題検証②

課題点：ORに賑わいが生まれにくい

検証結果

イベント：サイタリング/スカイ・ウォーターアクティビティ系
野球等のスポーツ大会 河川敷沿いの運動施設

一方、市民や観光客が参加できるようなイベントに關すると、年に1回開催される岡谷花火大会は
どしか確認できず、自然を基に人々が共に夏を乗り切る機会があるとは考えたい



1 地域振興の現状と課題
把握する

2 地域振興の課題を
整理する

3 課題の優先順位を
決定する

4 課題を
検証する

5 地域振興の
施策を決定する

6 地域振興
施策の実施

7 地域振興
施策の評価

4-5 「賑わいの形成」課題検証③

課題③：市民にCRを交流の場だと思ってもらいにくい

検証結果：

公共施設やNPO法人、民間施設が交流の場として個々に機能している一方、

それぞれの施設での地域感が乏しく
CRから感じ取ることができない



公共施設



民間施設

4-6 「駅わいの醸成」課題検証④

課題名

自転車を活用した観光がしにくい

検証結果

鶴工屋野田店―田端田にツーリング・レンタサイクル実施
(鶴工屋サイト<http://www.hikohouse.co.jp/home>)

本市に土曜駅あしびとをせよと求めたうえでせよと求めたが実現したい
駅わいの見直しは可能性はある



4-7 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

憩いの場の創出

- ・自然の力を憩いの場しめたり、移動手段として利用したりできる
- ・憩いの場が憩いの場となる
- ・憩いも楽しめる

憩いの環境

- ・公園のせせらぎに癒えるような自然の環境
- ・憩いの場が憩いの場となる
- ・憩いの場が憩いの場となる
- ・憩いの場が憩いの場となる

自然との共生

- ・自然が自然のままにあり続ける
- ・自然が自然のままにあり続ける、自然が自然のままにあり続ける

安心安全な環境

- ・子供から高齢者まで安心して利用できる



4-7 「自然との共生」の理想像



走るだけではないサイクリングロードの魅力を提供したい

※図4-7-1
立ち止まることのできるスポットを設置
景色がよい場所（富士見スポット）の紹介

4-7 「自然との共生」の理想像



野間特有の植生について知識を深めて
親しみを持ってもらいたい

実施内容

ガイド付きで植生について学び、手入れを
するイベント開催

植生と共に生きる動物について紹介しても
らう



4-7 「自然との共生」の理想像



川への親しみを得てもらいたい

自然体験
サップ/カヌー/釣り等の水上アクティ
ビティ



自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用

自然環境の保全と
持続可能な利用



4-7 「自然との共生」現状と課題

現状	課題
① 川との距離が遠かったり角度的に見られない	ロード上から川が見られない場所がある
② 南方には富士山やスカイアリーが見られる一方、北方には遠くの山々が見えるのみ	通行方向によって景観に差がある
③ 植栽が伸び景観になっている	河川敷沿いに生える草木が景観を阻害している
④ 川が汚い	水上アクティビティなどがやりにくい、親しみが湧きにくい



4-7 「自然との共生」課題検証1

課題①：ロード上から川が見られない場所がある

検証結果

河川敷が広い場所、草木が深い茂っている場所などは川を見ることが出来なかった

（今後、現地調査+地図に落とし込む）



4-7 「自然との共生」課題検証②

課題点：通行方向によって景観に差がある

検証結果



北方面

遠方に山脈が見えるのみ、あまり変化なし
同様に、緑地の境界まで見える



南方面

比較的に開けた景観
(富士山、スカイツリー等)

4-7 「自然との共生」課題検証③

課題①

河川敷沿いに生える草木が
景観を阻害



検証結果

野田市の河川敷を主に生息地とし、
レッドリストに認定される植物がある
(→貴重な植物を保護しつつ、景観を整える必要)



河川敷沿いに生える草木の調査結果

- 1. 河川敷沿いに生える植物
- 2. 河川敷沿いに生える植物
- 3. 河川敷沿いに生える植物

4-7 「自然との共生」課題検証④

100

河川が汚れていて、地上アタチ・ビチがやりにくい

1000

「**大衆の心をつかむ**」

2000年12月1日

悪いイメージがあるという情報もあり、
正しく認識していく必要がある

No.	Name	Performance					Total
		Q1	Q2	Q3	Q4	Avg	
1	John Doe	85	78	92	88	85.75	343
2	Jane Smith	72	81	89	76	80.75	325
3	Michael Brown	90	85	78	82	83.75	335
4	Sarah White	78	83	87	80	82.75	331
5	David Green	88	79	84	86	84.25	337
6	Emily Black	75	82	80	77	80.75	314
7	James Grey	82	76	85	81	81.25	324
8	Alice Blue	70	84	88	79	82.75	321
9	Robert Red	87	80	83	86	84.25	336
10	Olivia Yellow	73	86	81	78	82.75	318

[illegible]

4-8 「いつでも誰にでも開かれたサイクリングロード」の実現に必要なこと

憩いの場の創出

- ・ 自然の力を憩いの場として、休憩手段として利用したりできる
- ・ 憩いの場が憩いの場となる
- ・ 憩いの場となる

憩いの場の創出

- ・ 公園の中心部に憩いの場を創出する
- ・ 憩いの場が憩いの場となる
- ・ 憩いの場が憩いの場となる
- ・ 憩いの場が憩いの場となる

自然との共生

- ・ 自然の力を憩いの場として、休憩手段として利用したりできる
- ・ 憩いの場が憩いの場となる

安心安全の確保

- ・ 安心安全の確保を徹底して実施する



4-8 「安心安全の確保」の理想像



子供からお年寄りまで安心して利用できる
サイクリングロード

実現例

- ・防護柵設置、幅員狭しの注意喚起
- ・給水所、トイレの設置
- ・自動販売機等の設置



道路に設置した
手サインが効果的



4-8 「安心安全の確保」の理想像



子供からお年寄りまで安心して利用できる
サイクリングロード

図解④

同様の事例④への
「自転車専用道路」等の看板・標識等設置



4-8 「安心安全の確保」現状と課題

現状	課題
① 看板・標識が少ない	危険な場所が事前にわからない
② 出入り口付近の道路が狭いポイントや、 車道と交わるポイントがある	CR利用者の事故の危険性が高い
③ 背の高い木や屋根付きの小屋などがない	目撃がほとんどない (路中での危険など)
④ 避難所を示す案内板が見当たらない	川が氾濫した際、避難案内が十分ではない
⑤ 車道がなく路側道が狭いうえに交通量が多い、 CRに入るための横断歩道がない	CRに着くまでの道が危険



4-8 「安心安全の確保」課題検証①

課題①：危険な場所が事前にわからない

検証結果

看板や標識の数が少なく、注意喚起不十分

道幅が狭くなる部分で、事前の減速や速度低下の呼びかけなど、危険回避のための案内板を設置する必要がある

例) この先100m幅狭化し、すれ違い・追い越し速度注意

※ 写真の道路幅狭化箇所が、この検証の検証対象となる箇所です。



車道、線が交わっているが、事前に案内がなく非常に危険



1 課題の特定と課題の抽出

2 課題の整理と課題の抽出

3 課題の整理と課題の抽出

4 課題の整理と課題の抽出

5 課題の整理と課題の抽出

6 課題の整理と課題の抽出

7 課題の整理と課題の抽出



4-8 「安心安全の確保」課題検証②

課題②：自転車同士との事故の危険性が高い

課題説明



**自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に
注意などの危険がある**

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

自転車同士、自転車と歩行者などとの衝突に注意などの危険がある

4-8 「安心安全の確保」課題対応③

課題③：日照がほとんどない（結露等の危険など）

対応策



東武野田線江戸川橋梁下…日照有



CR上…日照ができる植物／小屋等…

結露等の対策のための対策となる環境保全を行った



5. 今後の方針

5-1 仮の課題の検証

現時点では仮定の課題で、今後調査・検証によって明らかにしていく事項

仮の課題の検証方法



資料やインターネットを用いた文献調査



住民向けアンケート調査



観光客向けアンケート調査

5-2 文献調査による、CRとその周辺状況に関する仮の課題の検証

「悪い場所の創出」

河川敷のどこを使って良いのかわからない

- 河川敷における立ち入り禁止区域や使用可能な区域、禁止事項などを示す資料や看板があるかを調べる

「安心安全の確保」

CRの出入口が急斜面である

- CRの断面図を用いて斜度を測る

CRに続くまでの道が急傾

- 「急傾」の定義と市内における調査範囲を決め調査

5-3 住民向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

目的：CRと地域住民に関する仮の課題の検証

地域住民のCRの利用実態の把握

項目：1.基本属性

2.CRの利用状況の把握

3.CRと市街の関係性

4.市街がCRに求めるもの

5.周辺資源の利用状況の把握

6.交通手段や自転車利用状況の把握

7.その他



webアンケート

5-3 住民向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

利用実態の把握

→市民の生活における、CRとの距離感を把握

Q 「CRなどのかみゆの機で利用していますか」で「利用しない」回答を選んだ方への質問です。
CRを利用する意図はありますか。 (選択式)

「離れの離感」

観光客と市民との交流がない

→市民が観光客と交流をおこなっているのか、またその必要性を感じているのかを把握

Q 観光客の方と会話するなどの交流をしたことがありますか。
また、それについて必要だと感じますか。

5-4 観光客向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

目的：CRと観光客に関する仮の課題の検証

観光客のCRの利用実態の把握

項目：1.基本属性

- 1.清水公園利用者のCRの利用状況の把握
- 2.清水公園利用者のサイタリングへの関心
- 3.清水公園利用者がCRに求めるもの
- 4.CRの利用者のCR利用実態把握
- 5.CR利用者がCRに求めるもの
- 6.その他



紙媒体



清水公園・CR

5-4 観光客向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

「思いの場」の創出

CRが憩える場所ではない

→CRのイメージの再確認

Q栗田のサイクリングロードのイメージを教えてください。 (自由回答)

5-4 観光客向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

「悪い」の検証

CRの利用者が少ない

→清水公園利用者がCRを利用したことがあるかの実態把握

Q.下記のサイタラップロードが解読されていますか。

CR沿いに立ち寄れる場所が少ない

→CR利用者が実際に立ち寄った場所の実態把握

Q.下記のサイタラップロードを利用したことがありますか。

Q.サイタラップロード沿いで立ち寄った場所はどこですか。 

5-4 観光客向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

「自然との共生」

CR扱いは、今は草がただ生え、定数がひろがっているだけである
→利用者がCRに対してどう思っているのか実態把握

Q2020のサイクリングロードのイメージを教えてください。 (例は任意)

5-4 観光客向けアンケートによる仮の課題の検証・利用実態把握

「安心安全の確保」

幅員が狭く自転車と歩行者の共存が難しい
車道と交わる部分が渡りにくい

走行速度の違いによる利用者同士のトラブル、追い越しの際に危険である可能性
→CR利用者が危険と感じていることの実態把握

Q サイクリングロードで危険と感じた点はどこですか。 (複数可)

5-5 事業者・市民に期待したいこと

①地元マルシェ

- ・地元利用する人に補助金、サポーターを貸し出す
→売上の向上、来客者の増加に繋がる

②観光農家

- ・河川敷の値し物（マルシェ等）にて、土産、販売
→売上の向上、観光客・市民の地域資源理解に繋がる

③観光農家を案内方々

- ・自転車に乗っている人が食べやすいオリジナルメニューの作成（今後、アンケート調査）
- ・自転車に乗った人が立ち寄れるような駐輪スペースの設置
- ・河のロゴを協力したメニューの横に貼り付けて認知度アップ

5-5 事業者・市民に期待したいこと

期待の他

- わびちゃんねるなど、地元の郷土を研究している方とタッグを組む
- 野田サイクリング協会と市と共同で、市内周遊サイクリング開催
- その他カヌーやダライダーに携わっている組織とイベント開催



期待望

- 事業者の活動を受け、CR、河川敷で読み聞かせやCRなど市民が主体的に楽しみ物を開催
→他の市民を活動に巻き込むこと、観光客に興味を持ってもらうことに繋がる

5-6 KPIの設定

経営戦略
アクションの立案



目標の達成度を数値として表す

＝ KPIの設定



社会実装など行動に移す

5-6 KPI

分類	内容
利用・訪問系	ロードの認知度／利用率向上 レンタルサイクルの台数 サイクリングをした人の数 アンケートでCRを身近に感じていると答えた人の数 CRの利用頻度 訪問回数 年に1回以上CRを利用する郡田市民がxx%
憩いの場系	憩いの場というイメージを持つ人の増加 ベンチ（座める場所）の数 ベンチの設置率 自転車大塚の数 給水所の数

5-6 KPI

分類	KPI
観光・経済系	OKでのイベントの実施回数 OK周辺でのイベント実施回数 OK利用者が立ち寄った場所の数 自転車対応しているお店の数 OK周辺の経済効果の推移 周辺施設の自転車での訪問者数 アンケート調査「野田市の魅力はなんですか？」による、現在と数年後の比較
安心安全系	街灯の数 事故の件数 危険と感じる場所が減っているかどうか
 ① 観光客の増加と地域活性化の促進 ② 観光客の満足度の向上 ③ 観光客の滞在時間の延長、消費額の増加 ④ 観光客の滞在期間の延長、消費額の増加 ⑤ 観光客の滞在期間の延長、消費額の増加 ⑥ 観光客の滞在期間の延長、消費額の増加 ⑦ 観光客の滞在期間の延長、消費額の増加	

5-6 KPI

分類	KPI
自然系	水質向上 水辺アクティビティの数 ガイドの数 植物を説明する看板等の数
情報発信系	SNSにて #〇〇〇 (地域の名前) の投稿数が増加していること Instagramのフォロワー数 CRと類似施設関係のマップの数 HPアクセス数(1,000以上) (野田市の人口の0.5%程度) 野田の観光地まとめサイトなどでCRが出てくる数

6. 情報発信

6-1 情報発信

Instagram、ホームページ、Twitter等を活用して、活動報告や野田市の魅力発信など、野田市の住民の方々や海外から訪れる観光客の方々に向けて情報を発信

各媒体の活用方法

Instagram

認知度向上
魅力発信

ホームページ

情報の蓄積
活動報告

Twitter

認知度向上
活動報告

6-2 インスタグラム



市民の方々を中心により多くの人に向けて、プロジェクトや野田観光の認知度向上を目的に運営。

テーマを設定し、ゼミ生が撮影した写真を投稿。

今までのテーマ：① 春を感じる1枚、冬を感じる1枚

フォロワー数（野田に同僚のある方）：4人

最大フォロワー
524,449人！



とっておきの1枚



6-3 ホームページ -noda.cycling.jp-

「Michi = Noda」プロジェクトの説明・活動報告・ゼミの紹介など、プロジェクトや野田観光の認知度向上や情報提供を目的に作成（4月中旬ごろ公開予定）



※PC版



※モバイル版

6-3 ホームページ

＜構成＞

- ・野田市について ——— 基本情報
CRについて
- ・Michi na Nodaとは ——— Michi na Nodaとは、活動内容
メンバー紹介
市長からのメッセージ
- ・活動報告 ——— 訪問、ディスカッション
ホームページ、Instagram
- ・資料 ——— 調査資料、発表資料等
- ・費用等について ——— 費用等について、地域プロジェクト



7. まとめ

7-1 まとめ

図 7-1-1



現在

図 7-1-2

サイクリングロードに
目的地を作る
住民の関心を作る

図 7-1-3



事業を呼び込む

図 7-1-4

サイクリングロードの
自己組織利用を促す

(再掲) 観光まちづくりの計画論的ステップ

